

令和2年度
住民の地域活動参加に関する実態調査
報告書

令和3年3月

社会福祉法人**那珂市社会福祉協議会**

1 はじめに

これまで地区みらいミーティング等において、地域活動の参加のきっかけは子育てを通じた参加が多い状況が把握されてきた。そこで、本実態調査では、主に小中学生の保護者を対象に、子育てに関する状況と地域活動への参加状況を調査することで、参加に関する傾向や課題を把握する事を目的に実施した。

また、今回の調査では、就労状況や世帯状況をより実態に近い形で把握するため、以下の条件で実施している。

- ・核家族世帯の把握のため、敷地内同居については「多世代同居」として取り扱う
- ・就労状況については、より実態に近づくよう、正規非正規を問わず把握

なお、地域活動については「自治会・地区まちづくり委員会の活動、子ども会（育成会）の活動、PTA活動（授業参観は除く）、自治会を範囲とするスポーツ・文化等の愛好会等の活動、消防団等」と具体的に例示し、それらの活動への参加状況や参加に伴う負担感などを無記名で把握した。

2 調査概要

(1) 調査名称

住民の地域活動参加に関する実態調査

(2) 対象

市内小中学校の保護者 約1800世帯

※1世帯あたり1回答（中学生までで最も年齢の高い子どもを基準に回答）

※配布部数3915通（1世帯あたり子ども2名以上と仮定し配布総数の45%程度の1800世帯を実家庭と想定）

(3) 実施方法

インターネットアンケートフォームを活用した調査

(4) 実施期間

令和2年12月22日～令和3年2月26日

(5) 有効回答数

370世帯（※実回答数402世帯）

※対象世帯数の約20%程度

(6) 実施主体

社会福祉法人那珂市社会福祉協議会 特定事業推進室

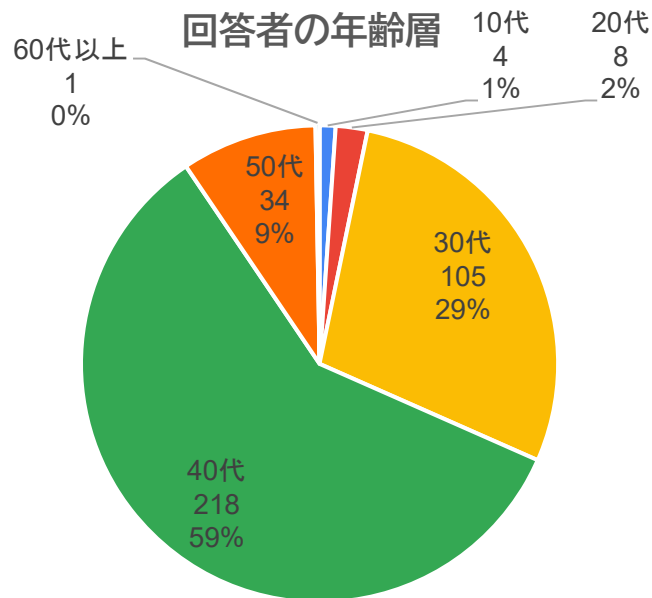
3 基本情報

回答者の約90%が3～40歳代並びに女性であった。地区については、地区の人口割りとほぼ同様の割合となっており、各地域において平均的に回答があった。約70%が核家族世帯であり、多世代同居世帯の減少が見られる。なお、世帯状況については、敷地内同居も同居として取り扱う調査をしたことから、より実態に合った世帯の状況となっている。子どもの人数については、全国平均と逆の状況となっており、2人3人の世帯が多い状況が見られる。平均して2人以上の子どものいる世帯が中心であることがわかる。

また、80%以上の世帯が共働きであり、土日に夫婦のいずれか（又はどちらも）が仕事のある世帯が50%を超えており、土日であっても活動に参加できる時間がない世帯が多い状況が見られた。

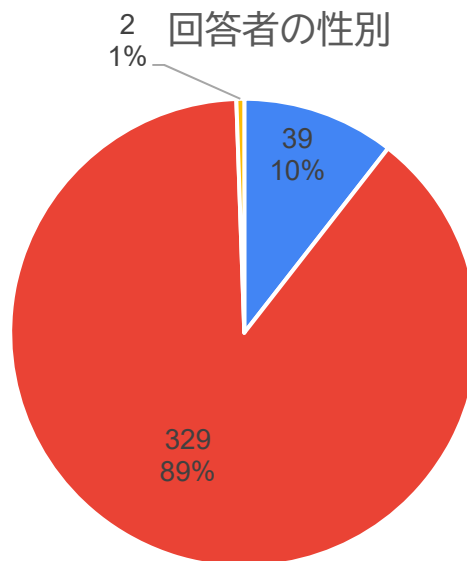
① 回答者の年齢構成

| 年代 | 人数 |
|-------|-----|
| 10代 | 4 |
| 20代 | 8 |
| 30代 | 105 |
| 40代 | 218 |
| 50代 | 34 |
| 60代以上 | 1 |



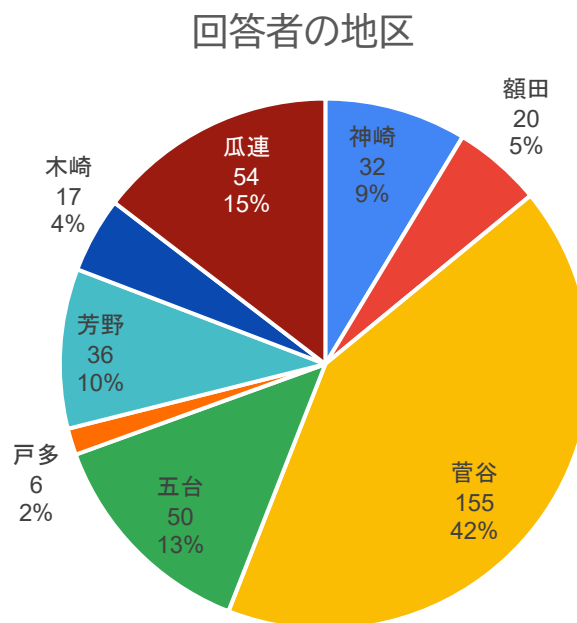
② 回答者の性別

| 性別 | 人数 |
|-----|-----|
| 男性 | 39 |
| 女性 | 329 |
| その他 | 2 |



③ 回答者の地区の状況

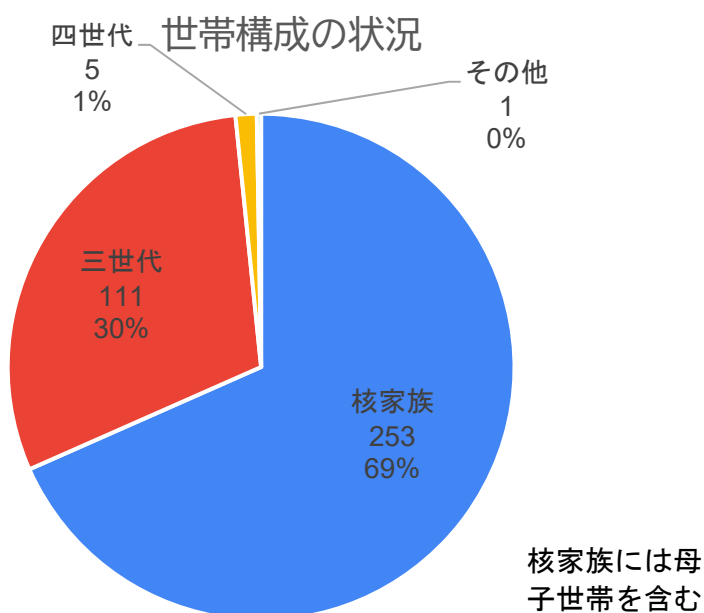
| 地区名 | 人数 |
|-----|-----|
| 神崎 | 32 |
| 額田 | 20 |
| 菅谷 | 155 |
| 五台 | 50 |
| 戸多 | 6 |
| 芳野 | 36 |
| 木崎 | 17 |
| 瓜連 | 54 |



回答者の地区の状況は、令和3年2月現在の地区人口の状況とほぼ同じであった。
 (参考：神崎9% 額田7% 菅谷40% 五台15% 戸多3% 芳野8% 木崎4% 瓜連14%)

④ 回答者の世帯の状況

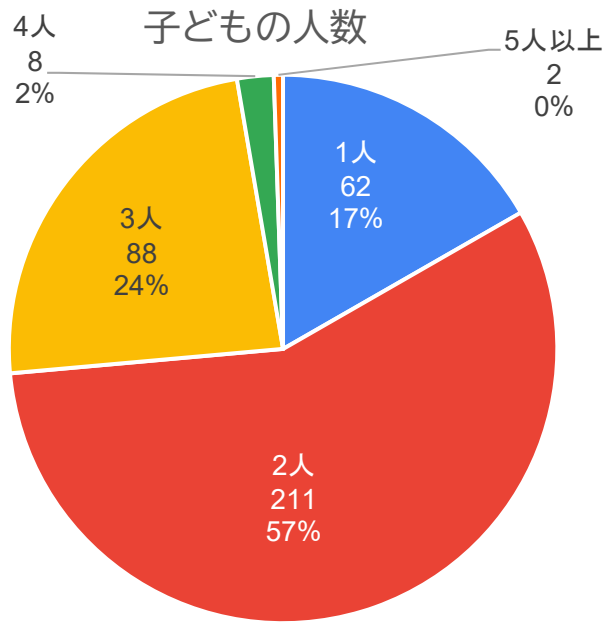
| 区分 | 人数 |
|-----|-----|
| 核家族 | 253 |
| 三世代 | 111 |
| 四世代 | 5 |
| その他 | 1 |



回答者世帯の約7割が核家族であり、多世代同居率の減少が見られる。核家族の中には母子・父子世帯が含まれているとともに、敷地内同居については多世代に含まれる。なお、母子・父子世帯は核家族のうち28世帯の回答となっている。

⑤ 子どもの人数

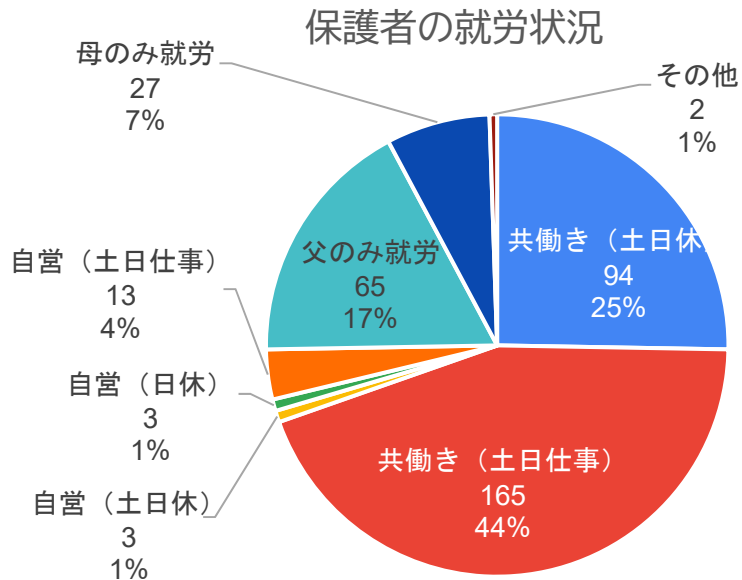
| 子どもの人数 | 回答数 |
|--------|-----|
| 1人 | 62 |
| 2人 | 211 |
| 3人 | 88 |
| 4人 | 8 |
| 5人以上 | 2 |



子どもが2人と3人の世帯で約8割となっており、子ども1人の世帯は2割弱の回答数であった。これは全国平均の1人4.6%、2人40%、3人14%と逆の状態であり、全国平均値に比べれば、一世帯あたりの子どもの数は多いこととなる。

⑥ 保護者の就労状況

| | |
|------------|-----|
| 共働き (土日休) | 94 |
| 共働き (土日仕事) | 165 |
| 自営 (土日休) | 3 |
| 自営 (日休) | 3 |
| 自営 (土日仕事) | 13 |
| 父のみ就労 | 65 |
| 母のみ就労 | 27 |
| その他 | 2 |



保護者の就労状況は、8割以上が夫婦共働きの状況（母のみ就労は母子世帯）にあり、父親のみの就労は2割を切っている。過去の「父は就労・母は家庭や地域」というモデルは成り立っていない状況にあることが見られる。また、自営を含む夫婦共働きの中でも、土日も仕事と回答した率が約5割になっており、子育て中の親の半数は、休日に地域活動を行うことが難しい状況になっていることがわかる。

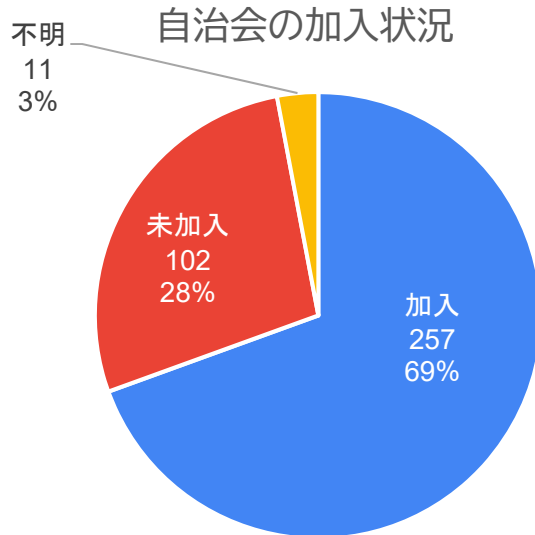
4 回答の分析

(1) 自治会加入状況

自治会の加入状況は、単身世帯等を除く子育て世代が対象であったことから、市の全体の加入率（67.99%）より3ポイント高い状況が見られ、子育て期においては自治会に加入している状況が多く見られた。しかし、世帯状況による自治会加入率は、多世代同居世帯が86%の加入率であるのに対し、核家族（母子を含む）世帯の加入率は、市の平均値よりも3ポイント低い64%であった。これは、アパート等で生活する子育て世帯が背景にあると考えられる。

◆自治会の加入状況（単純集計）

| | |
|-----|-----|
| 加入 | 257 |
| 未加入 | 102 |
| 不明 | 11 |



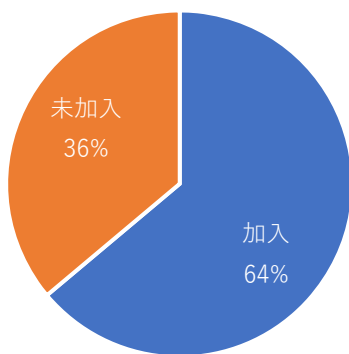
◆世帯状況による自治会加入率（クロス集計）

自治会の加入状況は、加入が約7割となった。また、不明のうち多世代同居が6件あったことから、実際は71%が自治会に加入しているものと想定される。なお、令和2年度時点の自治会加入状況は67.99%であり、子育て世代においては加入状況が3ポイント高いこととなる。

ア) 核家族（母子含む）

| | |
|-----|-----|
| 加入 | 161 |
| 未加入 | 91 |

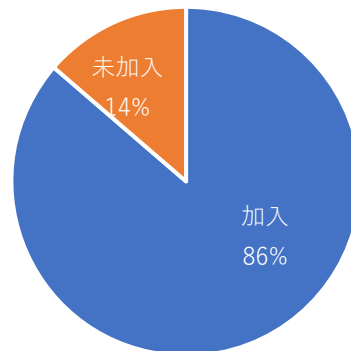
核家族



イ) 多世代家族

| | |
|-----|-----|
| 加入 | 101 |
| 未加入 | 16 |

多世代家族の自治会加入状況



核家族より多世代家族の方が22%自治会加入率が高く、親世帯が従来から自治会に加入していたことが理由と考えられる。

(2) 子ども会加入状況

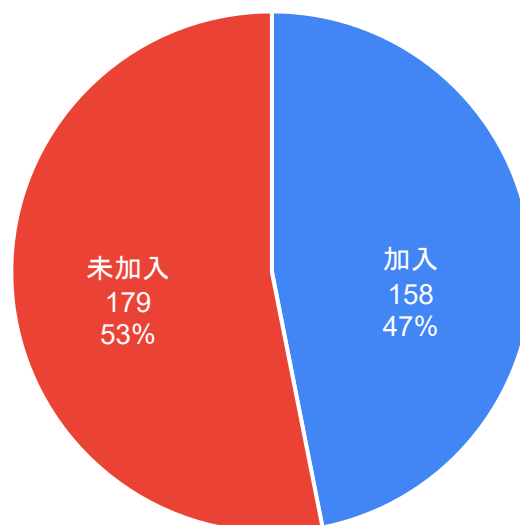
子ども会への加入状況は、47%が加入している回答が得られた。市全体における子ども会連合会活動保険加入状況から把握された、子ども会加入状況は30.1%であったことから、子ども会へ加入している世帯の回答が若干多く見られた。なお、地域別に見ると「神崎・五台・木崎・瓜連」地区が加入率50%を超えており、五台地区は78%と加入率が高い。一方で「額田・菅谷・戸多・芳野」地区では加入率が50%を割っており、芳野地区が22%と最も低い状況が見られた。

子ども会加入状況

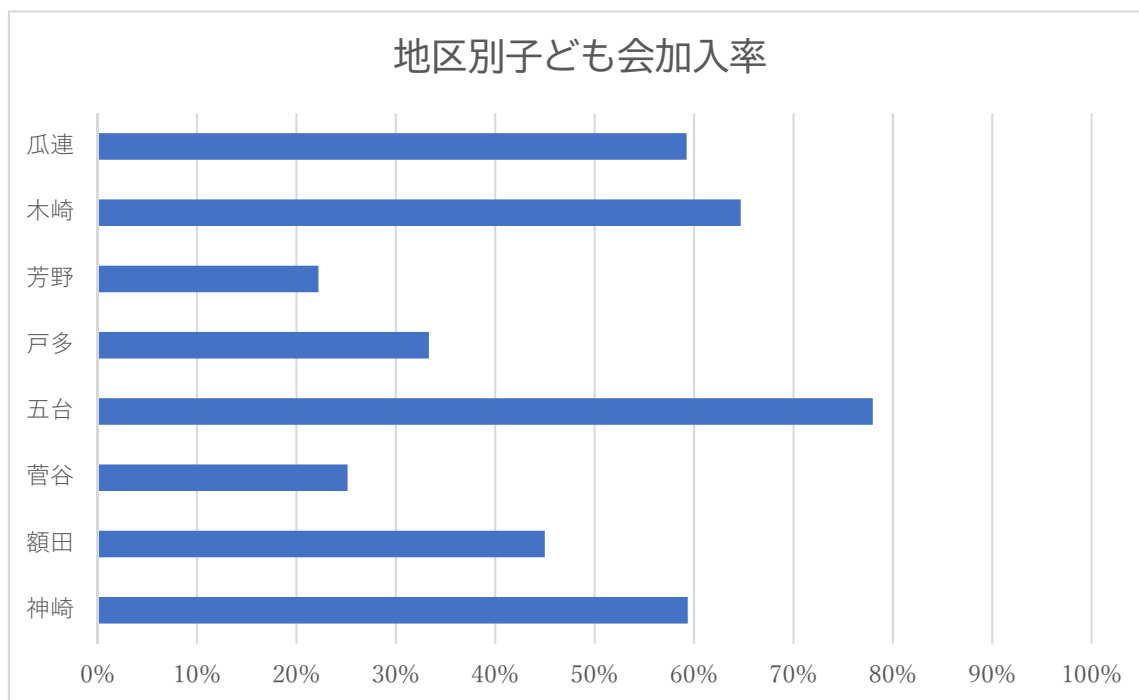
| 加入状況 | 会等数 |
|------|-----|
| 加入 | 158 |
| 未加入 | 179 |

未加入会等数から
中学生（小学生兄弟なし）33件を
除いた数値
n=337

子ども会加入状況



地区別子ども会加入率



(3) 地域活動への参加状況

活動への参加状況は、70%以上が参加している状況が見られた。最も多い参加実態は年3日～9日の参加で、次いで年2日以内となった。年2日以内は、町内一斉清掃などの最低限度への参加として考えられ、参加していないと回答したものと合わせると、55%が参加しないか最低限の参加にとどまっている実態が明らかとなった。

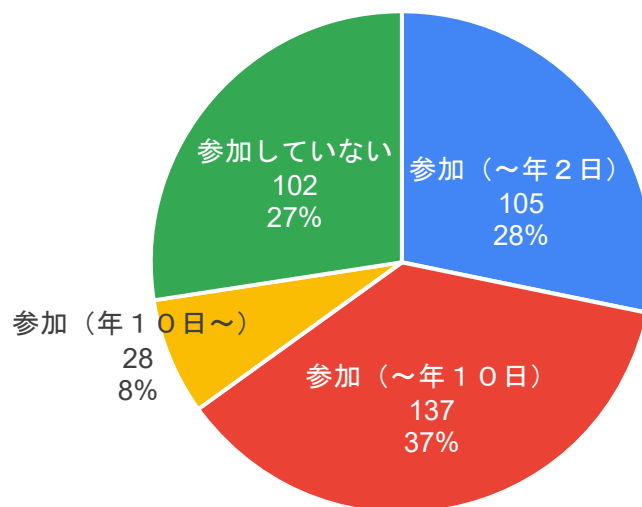
世帯状況による参加状況を見ると、多世代家族より核家族世帯の方が活動参加率が高く、また子育て協力者がいない世帯の方が、地域活動への参加率が高い傾向が見られた。背景には、祖父母との同居によって、祖父母が地域活動を担い親が子育てへ集中するといった状況があると考えられる。一方で、多世代家族など祖父母が同居している場合などは、年10日以上活動に参加している状況などが見られ、地域活動の役員を多世代同居世帯が担っていることが想定される。

特徴的なデータとしては、「子育て協力者がいない・土日就労がある・子どもが土日に習い事等がある」など、土日の時間的余裕の少ないグループの方が地域活動参加率は高く、忙しいなりに活動への参加はしている状況が見られた。

◆地域活動参加状況（単純集計）

| 参加状況 | 回答数 |
|-----------|-----|
| 参加（～年2日） | 105 |
| 参加（～年10日） | 137 |
| 参加（年10日～） | 28 |
| 参加していない | 102 |

地域活動への参加状況



参加している割合は73%であり、うち年10日以内が4割弱となっている。また、参加しているとは言っても、年2回という地域一斉清掃程度という回答も3割弱あり、参加していないと回答したかたと、参加が年2日以内と回答したかたとを合わせると5割以上になる。

一方で、月1回程度参加しているかたは1割に満たず、最低限の地域活動への参加にとどまっていることが見られる。

◆世帯状況による参加状況

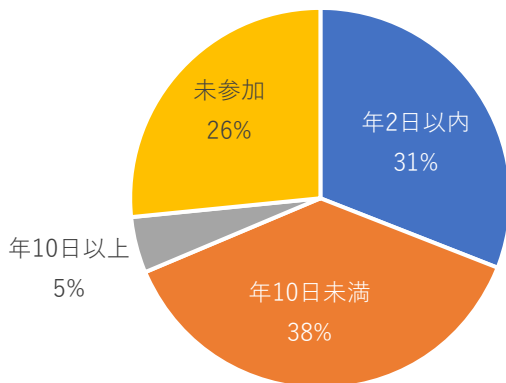
ア) 核家族（母子含む）

| | |
|--------|----|
| 年2日以内 | 78 |
| 年10日未満 | 95 |
| 年10日以上 | 12 |
| 未参加 | 67 |

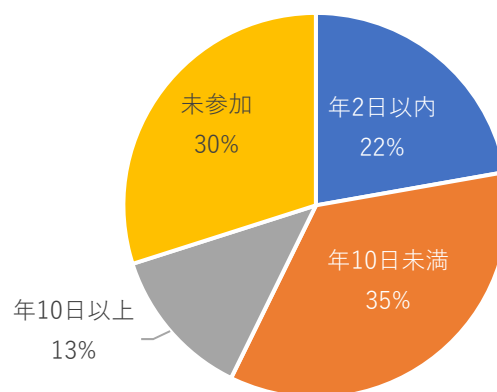
イ) 多世代家族

| | |
|--------|----|
| 年2日以内 | 26 |
| 年10日未満 | 41 |
| 年10日以上 | 15 |
| 未参加 | 35 |

核家族



多世代家族



核家族世帯の方が未参加率は4%少ない。ただし、年2日以内の最低限参加する世帯が11%核家族の方が多く、年10日以上の活動参加が8%多い。年10日以上の活動は、地域活動の役員であることが多いと想定され、従来からその地域で暮らす多世代家族の方が役員を依頼しやすいことが想定される。

◆子育て協力者の有無による地域活動参加状況

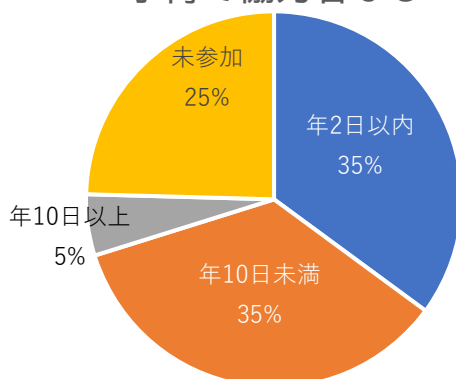
ア) 子育て協力者なし

| | |
|--------|----|
| 年2日以内 | 20 |
| 年10日未満 | 20 |
| 年10日以上 | 3 |
| 未参加 | 14 |

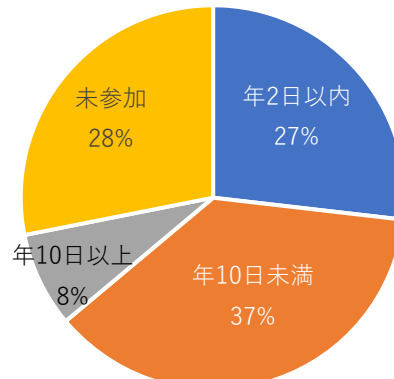
イ) 子育て協力者あり

| | |
|--------|-----|
| 年2日以内 | 84 |
| 年10日未満 | 116 |
| 年10日以上 | 25 |
| 未参加 | 88 |

子育て協力者なし



子育て協力者あり



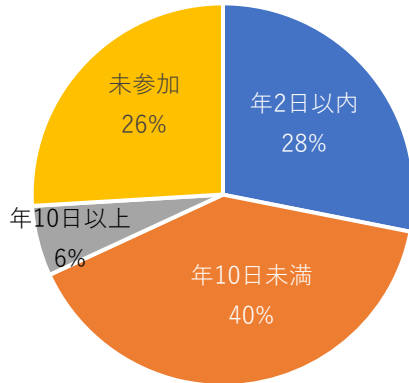
子育て協力者の有無による参加率の大きな違いは見られなかったが、子育て協力者なしの方が、年2日以内という、最低限の地域参加と回答している率が高い。子育て協力者の有無によって、子どもと地域活動の両立が難しいことが背景にあると考えられる。

◆就労状況による地域活動参加状況

ア) 共働き（土日就労あり）

| | |
|--------|----|
| 年2日以内 | 52 |
| 年10日未満 | 74 |
| 年10日以上 | 11 |
| 未参加 | 48 |

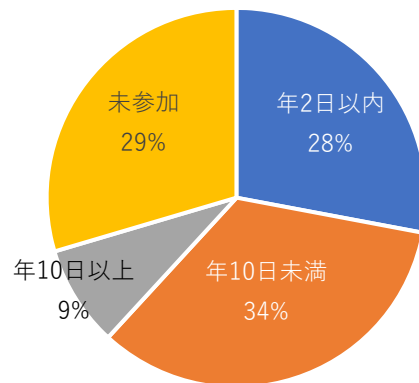
共働き（土日就労有）



イ) 土日就労なし、夫婦片働き

| | |
|--------|----|
| 年2日以内 | 52 |
| 年10日未満 | 63 |
| 年10日以上 | 16 |
| 未参加 | 55 |

土日就労なし、片働き



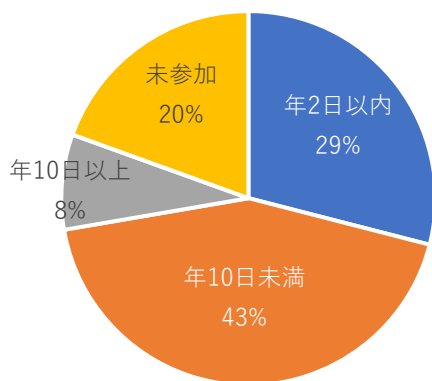
土日就労の有無では大きな割合の違いはないが、土日就労有のグループが年10日未満の活動参加が6%高い。一方で年10日以上活動については、土日就労なしグループが3%高い。土日就労があっても活動には参加し、役員については土日休みのグループが多いと考えられる。

◆子どもの休日の過ごし方による地域活動参加状況

ア) 土日習い事・部活あり

| | |
|--------|-----|
| 年2日以内 | 67 |
| 年10日未満 | 100 |
| 年10日以上 | 19 |
| 未参加 | 45 |

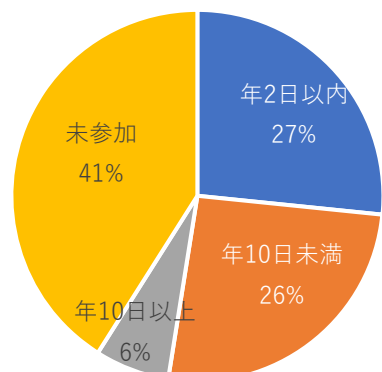
土日習い事・部活あり



イ) 土日習い事・部活なし

| | |
|--------|----|
| 年2日以内 | 37 |
| 年10日未満 | 36 |
| 年10日以上 | 9 |
| 未参加 | 57 |

土日に習い事・部活なし

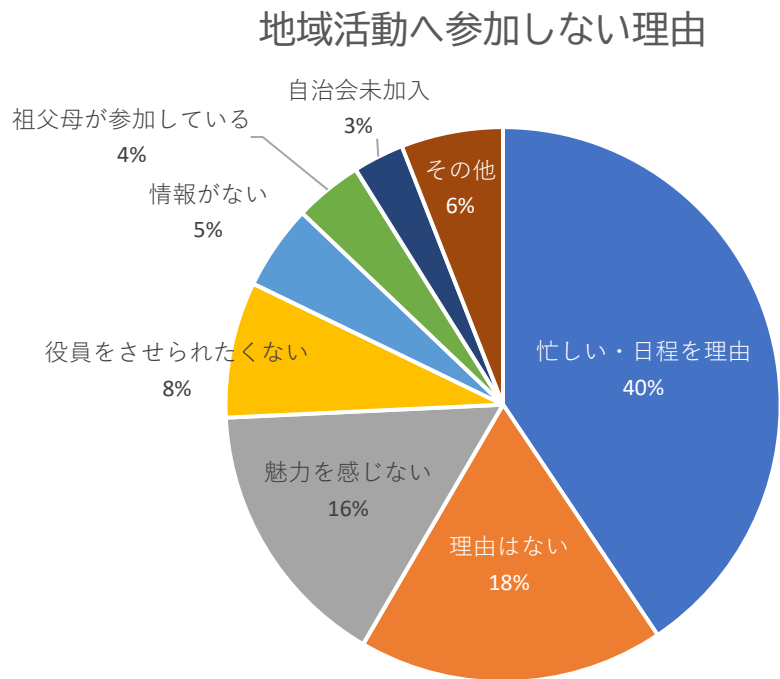


子どもの休日の過ごし方では、土日習い事や部活のあるグループの80%が活動に参加しているのに対し、土日習い事や部活のないグループは60%以下となっている。また、必要最低限の年2日以内を含めると土日習い事や部活のないグループは約70%が最低限の参加又は未参加となっている。

(4) 地域活動へ参加しない理由

地域活動へ参加しない理由として、「忙しい」など時間調整や確保に関する意見が40%と最も多く見られた。次いで、「理由はない」や「魅力を感じない」などの意見で合わせて34%であった。時間や忙しさを理由に挙げているかたが多いものの、魅力や理由はなくても参加したくないという意見も少なくなく、活動参加の可能性が低いかたは全体の10%程度はいると想定される。(理由なし、魅力を感じないと回答した34人の割合)

| 理由分類 | 回答数 |
|-----------------|-----|
| 忙しいなど 日程を理由 | 41 |
| 理由はない | 18 |
| 魅力を感じない | 16 |
| 役員を させられたくない | 8 |
| 情報がない | 5 |
| 祖父母が 参加している | 4 |
| 自治会未加入 | 3 |
| その他 | 6 |



(5) 休日の過ごし方の状況

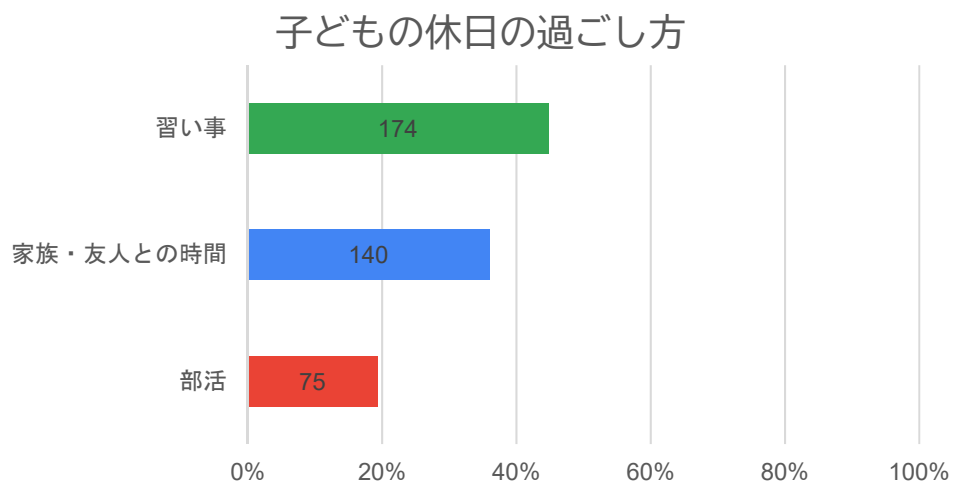
子どもの休日の過ごし方については、全体の 44%が何かしらの習い事を休日に行っている状況が見られた。部活と合わせると 64%以上が、子どもが休日に何かしらの活動をしており、自由に活用できる時間が少ないことが明らかとなった。一方で、習い事等を休日に行わず、子どもの遊ぶ時間や家族との時間としている回答が 36%見られ、休日は家族の時間として活用したい意向がデータから見られた。

また、子どもの活動によって、保護者の休日の過ごし方も子どもの習い事などを中心として、家事など休日でないといけないことを土日に行っていることが見られた。その上で、保護者自身の趣味など自分の時間を確保できているとの回答は 20%に達しておらず、子育て中の保護者には、自分のために使える時間が不足している状況が見られた。

◆子どもの休日の過ごし方

| 分類 | 回答数 |
|-----------|-----|
| 習い事 | 174 |
| 家族・友人との時間 | 140 |
| 部活 | 75 |

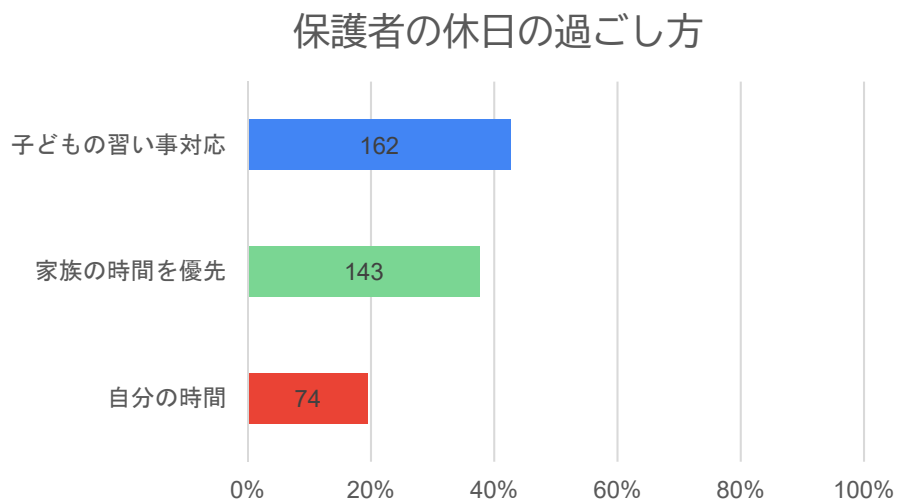
(複数回答あり n=389)



◆保護者の休日の過ごし方

| 分類 | 回答数 |
|-----------|-----|
| 子どもの習い事対応 | 162 |
| 家族の時間を優先 | 143 |
| 自分の時間が確保 | 74 |

(複数回答あり n=379)



(6) 子育て協力者の状況

子育てに当たっては、母方の祖父母の子育て協力率が39%と最も高く、次いで父方祖父母が27%となっている。一方で10%のかたには子育て協力者がおらず、夫婦のみで子育てをしている状況が明らかとなった。

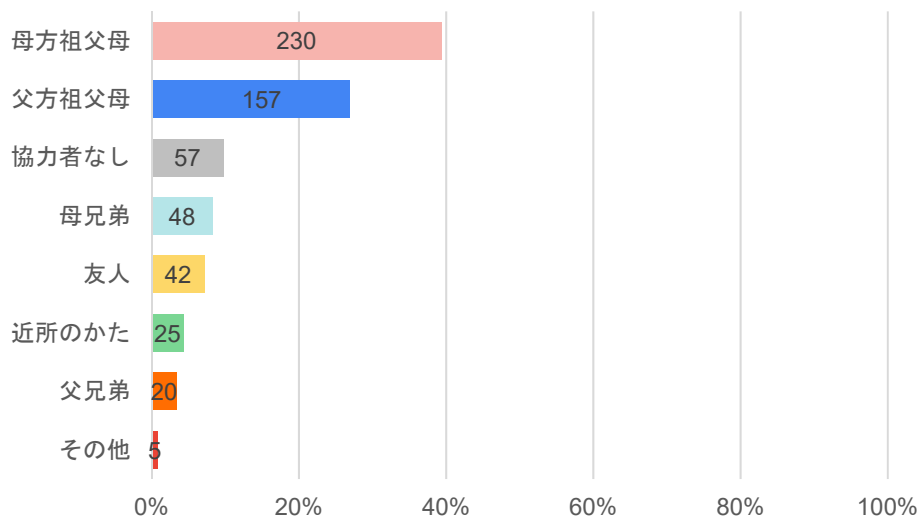
なお、4.3%と少数であるものの近所のかたが協力者となっている例も見られた。

◆子育て協力者の状況

| 協力者 | 回答数 |
|-------|-----|
| 母方祖父母 | 230 |
| 父方祖父母 | 157 |
| 協力者なし | 57 |
| 母兄弟 | 48 |
| 友人 | 42 |
| 近所のかた | 25 |
| 父兄弟 | 20 |
| その他 | 5 |

(複数回答あり n=584)

子育て協力者の状況

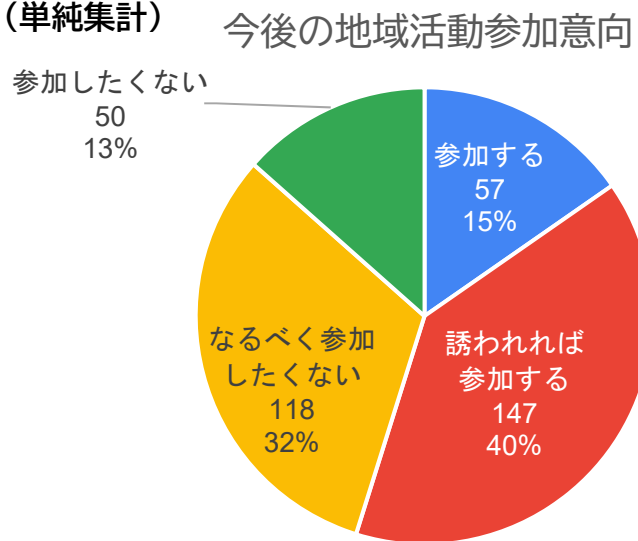


(7) 今後の活動参加に対する意向

今後の地域活動参加意向としては、「参加する・誘われれば参加する」を合わせて 55%、「参加したくない・なるべく参加したくない」を合わせて 45%となっており、概ね半数に割れた。世帯別・子育て協力者の有無別で見ると、多世代家族や子育て協力者有について、誘われれば参加するという回答が多く、核家族・子育て協力者無しについては、なるべく参加したくないという回答が多く見られた。なお、子育て協力者なしの傾向では、参加したくないという意向が強く、現在地域活動へ参加しているものの、現時点で子育てと地域活動の両立で忙しく、今後はなるべく参加したくないという考えが強くなっていると考えられる。

◆今後の地域活動参加に対する意向（単純集計）

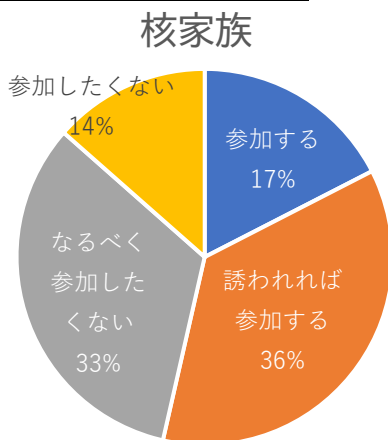
| 分類 | 回答数 |
|-------------|-----|
| 参加する | 57 |
| 誘われれば参加する | 147 |
| なるべく参加したくない | 118 |
| 参加したくない | 50 |



◆世帯状況による今後の地域活動参加意向

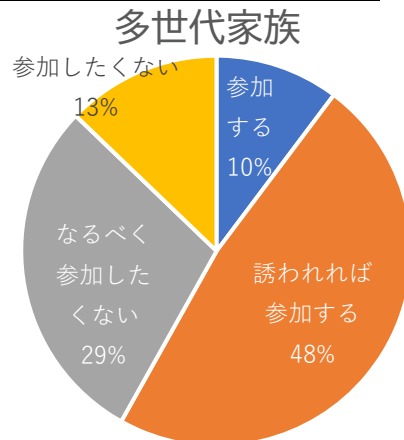
ア) 核家族（母子含む）

| | |
|-------------|----|
| 参加する | 44 |
| 誘われれば参加する | 91 |
| なるべく参加したくない | 83 |
| 参加したくない | 34 |



イ) 多世代家族

| | |
|-------------|----|
| 参加する | 12 |
| 誘われれば参加する | 56 |
| なるべく参加したくない | 34 |
| 参加したくない | 15 |



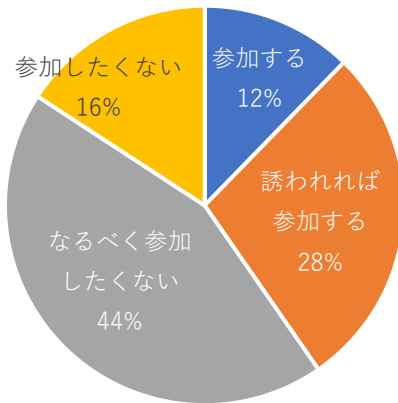
参加する、誘われれば参加するを合わせると、核家族 53%・多世代 58%と大きな違いは見られなかった。なお、核家族の方が参加すると回答した率が高い。

◆子育て協力者の有無による今後の地域活動参加意向

ア) 子育て協力者なし

| | |
|-------------|----|
| 参加する | 7 |
| 誘われれば参加する | 16 |
| なるべく参加したくない | 25 |
| 参加したくない | 9 |

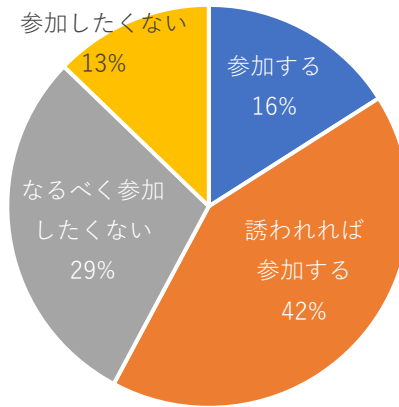
子育て協力者なし



イ) 子育て協力者あり

| | |
|-------------|-----|
| 参加する | 50 |
| 誘われれば参加する | 131 |
| なるべく参加したくない | 92 |
| 参加したくない | 40 |

子育て協力者あり



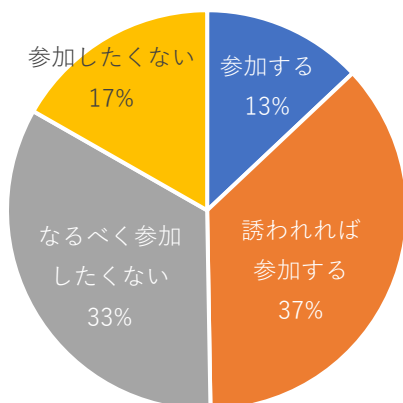
今後の意向に関しては、子育て協力者なしの方が、「参加したくない・なるべく参加したくない」が60%となっていた。結果からは、協力者の有無では、参加に関する負担感が異なり、協力者がいない世帯は地域活動へ参加する負担感が強いと考えられる。

◆就労状況による今後の地域活動参加意向

ア) 共働き（土日就労あり）の参加状況

| | |
|-------------|----|
| 参加する | 24 |
| 誘われれば参加する | 68 |
| なるべく参加したくない | 62 |
| 参加したくない | 31 |

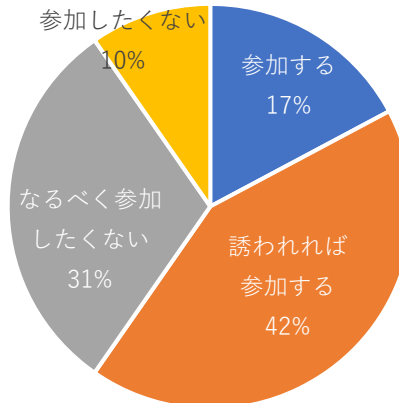
共働き（土日就労）



イ) 土日就労なし、夫婦片働き

| | |
|-------------|----|
| 参加する | 32 |
| 誘われれば参加する | 79 |
| なるべく参加したくない | 57 |
| 参加したくない | 18 |

土日就労なし、片働き



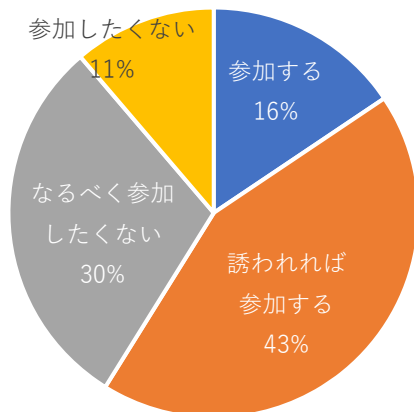
今後の活動意向に関して、土日休みのグループが約60%が「参加又は誘われれば参加する」と回答したのに対し、土日就労有のグループは、50%が「参加又は誘われれば参加」、50%が「なるべく参加したくない、参加したくない」を選択している。結果からは、活動には参加しているものの、負担感が強い状況で参加しており、今後はできれば参加したくないとの回答が増えていると考えられる。

◆子ども休日の過ごし方による今後の地域活動参加意向

ア) 土日習い事・部活あり

| | |
|-------------|-----|
| 参加する | 36 |
| 誘われれば参加する | 100 |
| なるべく参加したくない | 69 |
| 参加したくない | 26 |

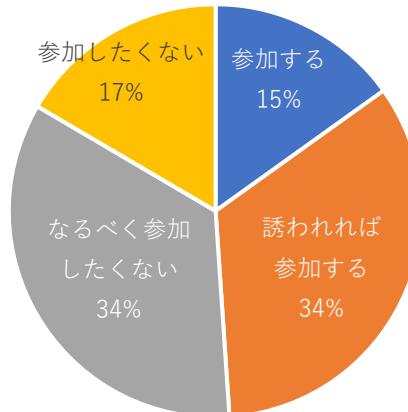
土日習い事や部活あり



イ) 土日習い事・部活なし

| | |
|-------------|----|
| 参加する | 21 |
| 誘われれば参加する | 47 |
| なるべく参加したくない | 48 |
| 参加したくない | 23 |

土日習い事や部活なし

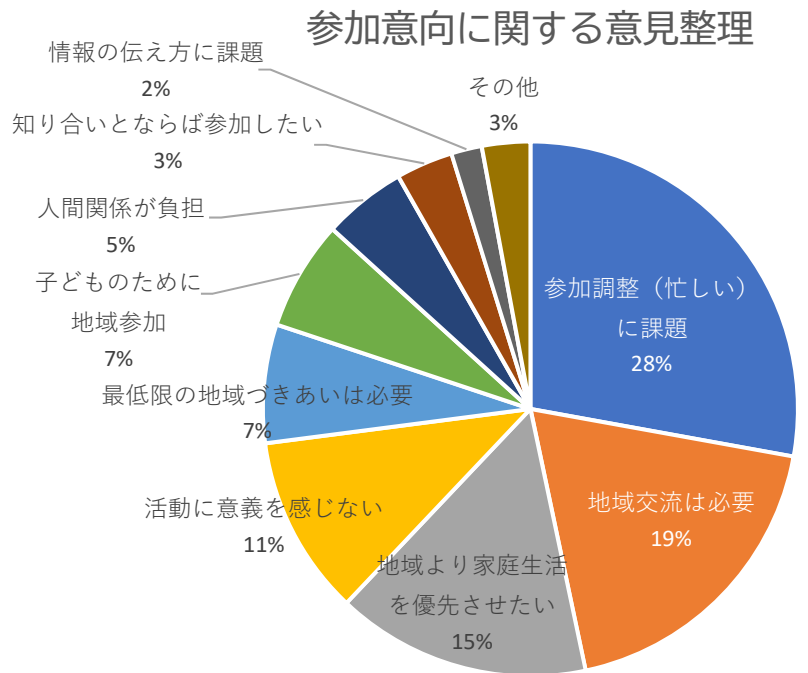


子どもの土日の過ごし方では、土日習い事等があるグループが習い事なしのグループより、参加する・誘われれば参加するの割合が10%多く見られた。

(8) 今後の地域活動参加意向に関する理由分類

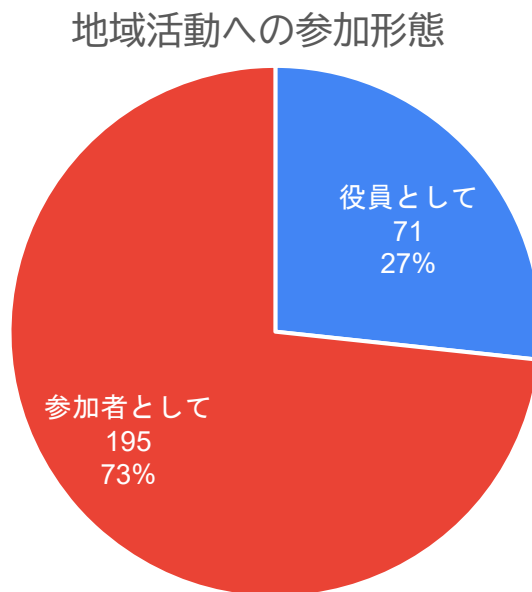
理由として、日程などの忙しさを理由に挙げる回答が28%と最も多いが、地域交流の必要性や最低限の地域づきあいの必要性、子どものための地域参加など33%が、地域づきあいを必要とする意見が見られた。一方で、日常生活の忙しさ故、地域より家庭生活を優先させたいという意見が15%、活動の意義に疑問を感じる意見や活動にかかる人間関係などの課題の意見が16%見られた。

| 分類 | 回答数 |
|-----------------|-----|
| 参加調整（忙しい）に課題 | 105 |
| 地域交流は必要 | 71 |
| 地域より家庭生活を優先させたい | 58 |
| 活動に意義を感じない | 41 |
| 最低限の地域づきあいは必要 | 27 |
| 子どものために地域参加 | 25 |
| 人間関係が負担 | 19 |
| 知り合いとならば参加したい | 13 |
| 情報の伝え方に課題 | 7 |
| その他 | 11 |



◆地域活動への参加形態

| 分類 | 回答数 |
|--------|-----|
| 役員として | 71 |
| 参加者として | 195 |

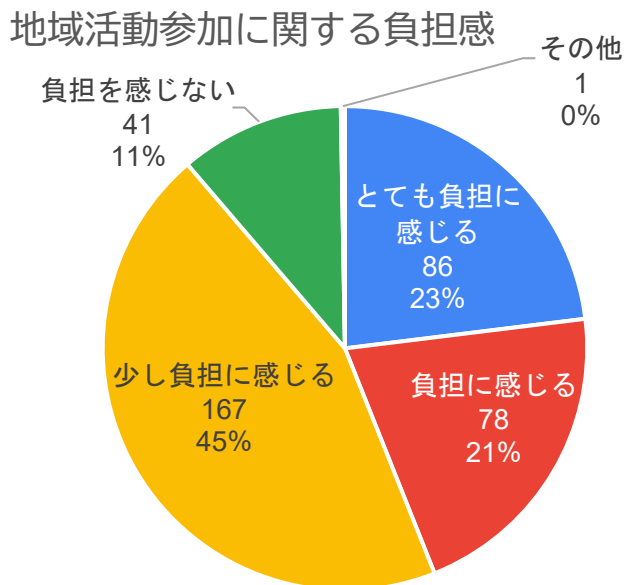


地域活動への参加について、73%が参加者として、残り27%が役員として参加している。質問は過去3年間としていることから、約10%が年次の役員割合と想定される。

(9) 地域活動参加に関する負担感

地域活動参加に関する負担感については、「とても負担に感じる・負担に感じる」を合わせて44%、「負担を感じない・少し負担を感じる」を合わせて56%となっている。また、負担を感じないとの回答が11%であることを考えると、9割近くの住民が何かしらの負担を感じながら地域活動へ参加している状況が見られた。ただし、「少し負担を感じる」という意見が45%と半数に近く、多少負担を感じながらも参加しないわけではない状況が見られている。

| 分類 | 回答数 |
|-----------|-----|
| とても負担に感じる | 86 |
| 負担に感じる | 78 |
| 少し負担に感じる | 167 |
| 負担を感じない | 41 |
| その他 | 1 |

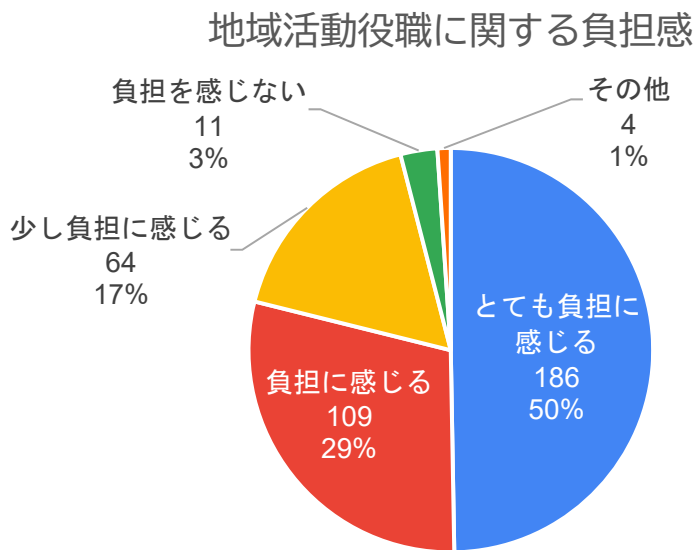


(10) 地域活動の役職に関する負担感

役職に関する負担感では「とても負担に感じる・負担に感じる」が79%であり、地域活動の役職に関しては負担に感じている傾向が見られた。地域参加状況での負担感を見ると、年3日以上参加しているグループよりも、未参加と年2日参加のグループの方が「とても負担に感じる」と回答した割合が高く、子ども会の加入状況でも同様の傾向が見られた。

こうしたことから、参加しているグループの方が、役を担った経験からとても負担に感じる割合が少なくなり、参加したことのない(少ない)グループについては、役員に対するイメージから負担を感じている傾向が見られた。(地域活動に参加していないかたのうち89%が、とても負担に感じる・負担に感じる と回答)

| 分類 | 回答数 |
|-----------|-----|
| とても負担に感じる | 186 |
| 負担に感じる | 109 |
| 少し負担に感じる | 64 |
| 負担を感じない | 11 |
| その他 | 4 |

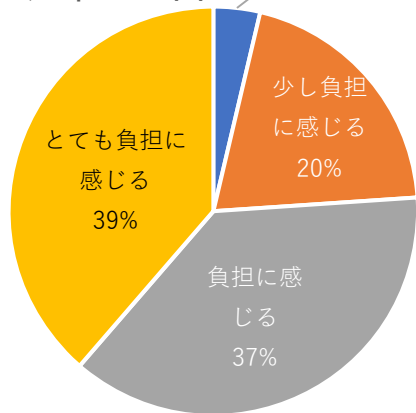


◆活動参加状況と役員の負担感

ア) 年10日以上、年3~9日参加

| | |
|-----------|----|
| 負担を感じない | 6 |
| 少し負担に感じる | 33 |
| 負担に感じる | 61 |
| とても負担に感じる | 63 |

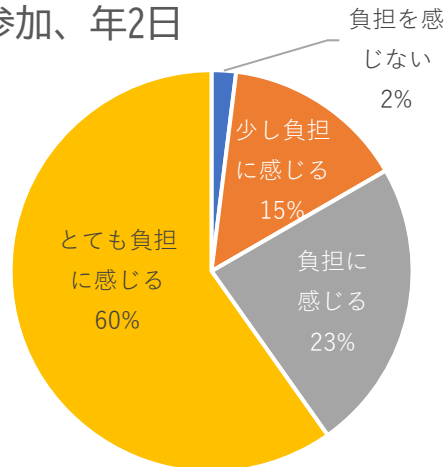
年10日～、年3~9日



イ) 未参加、年2日以内参加

| | |
|-----------|-----|
| 負担を感じない | 4 |
| 少し負担に感じる | 30 |
| 負担に感じる | 48 |
| とても負担に感じる | 122 |

未参加、年2日

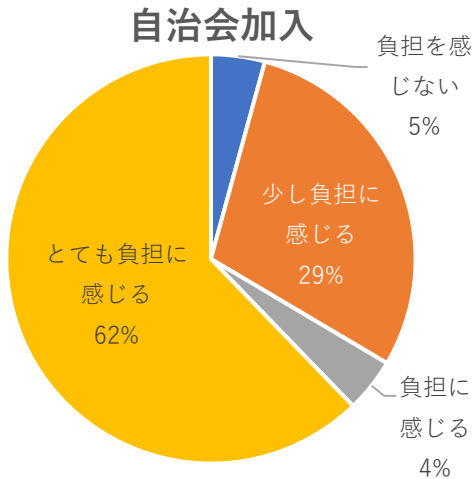


活動に3日以上参加しているグループについてはとても負担に感じる割合が約40%なのに対し、未参加と年2日活動参加のグループでは、とても負担に感じる率が60%となっており、参加していないグループの方がイメージとして役職に対する負担感が高いことが見られた。

◆自治会加入状況と役員の負担感

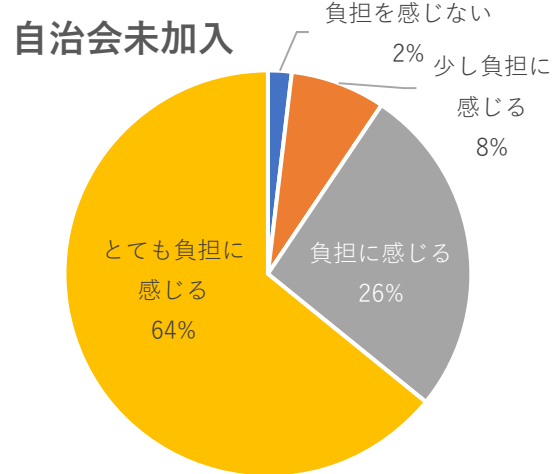
ア) 自治会加入

| | |
|-----------|-----|
| 負担を感じない | 8 |
| 少し負担を感じる | 55 |
| 負担を感じる | 8 |
| とても負担を感じる | 117 |



イ) 自治会未加入

| | |
|-----------|----|
| 負担を感じない | 2 |
| 少し負担を感じる | 8 |
| 負担を感じる | 28 |
| とても負担を感じる | 68 |

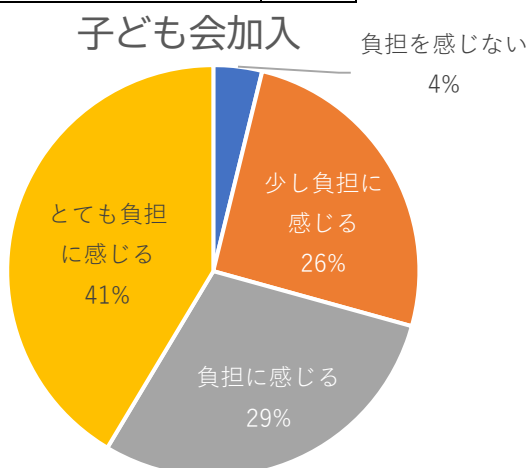


自治会加入者の66%が役員について「とても負担を感じる、負担を感じる」と回答したことにに対し、未加入者は90%が「とても負担、負担を感じる」と回答している。これは、役員のイメージが負担であるために自治会に加入していないことが背景にあると考えられる。なお、一部には、役員を負担に感じ自治会を退会しているかたも含まれている。

◆子ども会加入状況と役員の負担感

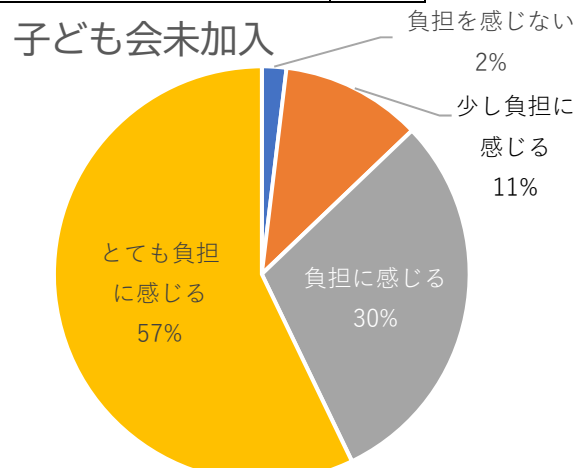
ア) 子ども会加入

| | |
|-----------|----|
| 負担を感じない | 6 |
| 少し負担を感じる | 40 |
| 負担を感じる | 46 |
| とても負担を感じる | 65 |



イ) 子ども会未加入

| | |
|-----------|-----|
| 負担を感じない | 4 |
| 少し負担を感じる | 23 |
| 負担を感じる | 63 |
| とても負担を感じる | 120 |



子ども会加入のグループに関しては、「とても負担・負担を感じる」が70%、未加入のグループでは、87%で、実際に子ども会に加入しているグループの方が負担を感じている率が低いことが見られた。これは、自治会加入未加入と傾向が同じであって、役員の負担イメージによって子ども会へ加入していない背景があることが考えられる。

(11) 自由記述の意見分析から

①活動参加に関する問題やその背景

地域活動の参加協力に関する意見では、「夫婦共働きや土日仕事であるため、参加が難しく心苦しい」「知らないかたたちの中に入っていくことに対してためらいがある」など協力したいと考えているものの、仕事によって参加できず心苦しい思いをしたり、知り合いがいない中へ入っていくことをためらったりなどの意見が見られた。

また、活動の負担や問題に関する意見では、「若い世代が少なくなったため、役のまわりが早い」「若い人たちで役を回すように年配者から指示され、そのことがきっかけで負担を感じるようになった」「飲み会、参加人数の割り当て、研修という名の旅行は、活動そのものとは関係がなく意義を感じられない」など、社会環境が変化しているのにもかかわらず、旧来の活動スタイルを継続させていることで生まれる負担があげられた。

その他に、「年配者の意見が強く、若い人にとって負担」という意見や、「やむを得ず参加を辞退した人に対する悪口や差別などがなくなる限り、活動に対する共感はもらえないと思う」など、人間関係に関する意見も見られた。

②活動の必要性に関する意見

必要性に関しては、「子ども会への加入が年々減少しているものの、上下関係の経験や様々な体験など、自分が参加して楽しかったことを考えると、子ども会を継続させていく必要性を感じる」「パトロールなど、子どものために地域のかたが協力してくださっていることを感じ、そうした活動を通じて、世代間の助け合いの必要性が感じられる」などといった、必要性を訴える意見があった。その一方で「自治会も子ども会も必要性を感じず不要だと思う」という、活動そのものを不要とする意見も見られた。

③活動の見直しに関する意見

見直しに関する意見に関しては、「【○○しなければならない】という形式ではなく【できるときにできる人が活動】する手法に改めてはどうか」や「単発の活動であればできる限り参加したい」などの意見があり、従来の半強制的な参加のあり方の見直しを求める意見が挙げられた。また、「イベント的なことよりも、清掃や環境整備など目的がシンプルでわかりやすい方が参加しやすい」「子どもを中心とした活動へすることで、若い世代にも活動内容や効果が伝わりやすく、世代間の助け合いが進むのではないか」など活動内容に関する意見が見られた。そのほか「共働き世代への役員負担軽減などを検討していかないと、自治会加入者が減ってしまうのではないか」といった負担軽減に関する意見も挙げられていた。

④その他の意見

その他の意見としては「コロナウイルスが落ち着くまでは、最低限の活動だけに減らし、無理に行おうとしないでほしい」「順番なのだから、役員になったときはしかたがない」などの意見が見られた。

(12) その他の自由記述から

意見の大半は、地域活動に関する意見と同様であったため、異なる内容を中心に整理した。

①子育て環境に関すること

- ・自分たちが子どもの頃は近所の友達どうして遊ぶことが多かった。子ども社会の縦や横のつながりはとても大切だと思っている。しかし、事件に巻き込まれてしまったらという思いから、子どもだけで遊ばせて良いものか迷いがある。安心安全に子どもどうして遊べる環境の工夫が必要だと思う。
- ・市内の道路の新設や拡張に伴う地域区分の見直しが必要だと思う。たとえば国道349号をまたいだ自治会や小学校区割りの問題など、昔から続いている区分が今の地域生活に合っていないし、地域活動参加の妨げの要因にもなると考える。
- ・那珂市に期待したいけれど、子育て世代にとっても優しいとは言えないと思う。近隣市町村が特別なものかもしれないが、どうしても比べてしまう。特に今回のコロナの影響による休校では特にそれを感じた。全員が納得することは難しいかもしれないが、住みやすく、過ごしやすく、優しい町になってほしいと願う。

②負担に関すること

- ・自治会に加入していないと粗大ゴミを捨てられない。地域の活動に参加したいとは思いますが、金銭的な負担が大きいので参加できない。
- ・共働きが普通の社会となっているのに、活動内容は変わりがない。仕事をしながら、子ども会育成会会長、自治会地区役員、少年団役員を掛け持ちしている。もう少し、団体や活動内容を絞っていかないと子育て世代の負担が大きすぎてつぶれてしまう。
- ・子ども会などの役員当番が回ってくると、会を退会する人が多い。
- ・学校行事で、仕事の方に迷惑がかかっている。

③周知に関する意見

- ・自治会や子ども会の加入率の低さに驚きます。もっと加入者が増えるように、対策を考える必要があると思います。たとえば、街灯は自治会費で維持しているのに、加入していない人も恩恵を受けているので、周知が必要だと思う。
- ・他から転入されてきたかたは、特に地域との交流を好まないように感じています。自分が子どもの頃は、子ども会の活動は楽しかったと感じているので、子どものために自治会や子ども会に加入してほしいと思う。

④その他の意見

- ・新型コロナウイルスの流行で、茨城でも医療が逼迫しているのに、なぜ年末年始の神社で行われている活動は通常通りなのか、屋外だからといって甘く見すぎていると思う。
- ・コロナで回覧すら怖いので、一斉通知やメールなどにしてほしい

5 現状と課題

(1) 子育て環境の現状と課題

本調査結果から、市内小中学生の保護者の80%以上が夫婦共働きであるとともに、50%以上が夫婦いずれか又はどちらも土日に就労があると回答があった。また、約70%が核家族世帯であり、敷地内同居を含む多世代世帯は約30%となった。これは、現在の保護者が子どもであった3～40年前とほぼ逆の状態であり、子育て環境が大幅に異なっていることがわかる。

併せて、子どもたちは土日に習い事や部活を行っている割合が60%以上となっており、自由に使える時間が減っていることが見られるとともに、保護者も土日は子どもの対応や、平日にできない家事などをこなす状況が見られ、子育て世代における休日の時間的余裕の少なさが明らかとなった。

このように、子育て環境が大きく変化しており、従来スタイルで実施している地域活動は負担が大きく、現在のライフスタイルに合わせた活動のあり方を検討していく必要がある。

(2) 地域参加の現状

子育て世代の地域への参加状況としては、自治会加入率が約69%で市全体の加入率約68%とほぼ同数であった。世帯状況別に見ると多世代家族世帯86%が自治会へ加入している一方核家族世帯は64%と差が明らかとなった。この背景には、アパート等で生活する世帯や、新たに住宅を建て転入してきた世帯など、複数の要因があると考えられる。

今回の回答から見られる子ども会加入状況は47%で、最も高い78%から最も低い22%まで大きな差が見られた。背景には、子どもの人数ではなく、子ども会の活動に求められることがあると考えられ、加入率が高い地域では学校への登校班や地域の運動会などが子ども会の活動として位置づけられている場合が多い。

地域活動への参加状況については、70%以上が地域活動へ参加していると回答している。参加状況別に見ると「参加していない」と「年2日以内」の活動参加が55%と多く、参加しない又は最低限の活動への参加にとどまっている状況が見られた。一方で、「子育て協力者なし」「土日就労あり」「子どもが土日に習い事や部活」があるなど、土日に時間に余裕の少ないグループの方が地域参加率が高い状況が見られ、忙しいなりに地域活動へは参加している状況が見られた。

なお、参加していないと回答されたかたの理由として、忙しいなど日程的な理由が最も多いが、次いで「理由はない」「魅力を感じない」など活動への関心が低い意見が30%を超えていた。そうしたことから、全体の約10%程度は地域活動に関心を示さない層であることがわかった。

上記のことから、活動への参加については、就労の形態が様々であることを踏まえながら、それぞれが参加しやすい配慮や参加の仕方について、既存のやり方にこだわらず見直しを行う必要がある。

(3) 参加意向や負担感の現状と課題

今後の地域活動への参加意向としては、「参加・誘われれば参加」のグループが55%、「参加したくない・なるべく参加したくない」のグループが45%と、概ね半数に分かれた。なお、状況別に見ると「子育て協力者無し」では参加したくないとの意向が強く、現在は地域活動に参加しているものの、家庭生活との両立が大変なのでできれば参加したくないという考えが強くなっているものと考えられる。

また、参加の意向についての理由から、必要性は理解しているものの、仕事・家庭の両立のために忙しく、まずは家庭を優先したいという意向が多く見られた。なお、意義を感じないなどの関心の低い意見に関しては約10%と、前述の参加の現状で見られた関心の低い層とほぼ同様の状況が見られた。

地域活動の負担感については、参加については若干の負担を感じつつも、参加しなくはないという状況が見られた。一方で役員に関しては、「負担を感じる・とても負担を感じる」が約80%となっており、役員に対する負担感を非常に強く感じていることが明らかとなった。その中でも、参加しているグループに関しては、「とても負担を感じる」割合が参加していないグループに比べて20%以上低く、参加していないグループの役員負担イメージが強くと見られた。なお、自治会役員に関するイメージでは、加入・未加入ともとても負担に感じる割合はほぼ同じで、非常に負担に感じている状況が見られた。

上記のように、参加については大きな負担となっていないものの、役員など運営に関わる場合は負担感がかなり大きくなっていることが明らかとなった。これは、役員に対する一般的な傾向ともとらえられるものの、子育て環境の変化など保護者にかかる負担が増えていることが背景にあると考えられる。

そこで、役員負担のため参加を取りやめたり、加入を取りやめたりすることのないように、役員のあり方などについて見直しを行っていく必要がある。

(4) 課題の全体像

少子化、夫婦共働きや土日就労の一般化、子どもの土日の過ごし方の変化など、子育て環境が大きく変化しているが、現在行われている地域活動は従来の活動のスタイルを継続しており、環境の変化に合わない状況となっている。それによって、活動や役員に対する負担感が増し、結果として活動に参加できない状況や参加しないという選択をせざるを得ない状況になっている。しかし、地域パトロールなど現在行われている活動に対して感謝を示すなど、世代を超えた助け合いの必要性を感じていることが見られた。そうした活動の意義や子どもにそれを伝えていく必要性を感じている保護者も少なくなく、時間を調整しながら参加している状況が見られた。

こうした状況から、単に参加を増やすための活動内容や役員負担をどうするのかなど、部分的な検討を行うだけでは状況は改善できないと考えられる。これまで続けてきた活動で残していくべきこと、子育て環境の変化に合わせた活動手法のありかたなど、未来を担う子どもたちに「世代を超えた助け合いの必要性」をどのように伝えていくのか、世代・分野を超えた対話の場づくりをすすめ、共感できる活動のあり方について検討していく必要がある。

參考資料

住民の地域活動参加に関する実態調査実施要項

1 経緯

令和元年度に実施した「地区みらいミーティング」においては、将来を担う若い世代の地域活動に対する意識把握を行う必要性が把握された。そのため、主に子育て期にある若い世代を対象とした「若者みらいミーティング」を令和2年度に実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種地域事業が中止となった。そのため、集合型行事の実施が困難となり、代替案としてアンケート方式での調査を行うこととした。

2 目的

地区みらいミーティングにおいて、子育てを通じて地域活動に参加する住民が多く、子育て期における地域参加の経験が、その後の地域活動参加へ大きな影響を与えることが把握された。そこで、小中学生の子を持つ保護者を対象に地域活動参加に関する実態調査を行うことで、今後の地域活動にかかる課題を把握し第4次那珂市地域福祉活動計画へ反映させることを目的とする

3 対象者

- (1) 子ども会育成会で運営を担っている保護者
- (2) 小中学校でPTA役員を担っている保護者
- (3) その他、一般の子育て中の保護者

4 周知協力依頼

- (1) 子ども会育成会事務局（生涯学習課）を通じて、会議開催時に協力を依頼
- (2) P T A連絡協議会時に協力を依頼
- (3) 小中学校を通じアンケート依頼を配布

5 実施方法

Google フォームを活用した web アンケート方式

6 実施時期

令和2年12月22日から2月26日まで

7 実施報告

アンケート結果を集約・分析し、報告書を作成したうえで、社協ホームページなどで一般公開する。また、コロナ禍の収束後、地区まちづくり委員会に協力を依頼し、自治会を対象とした報告会を実施予定

8 問い合わせ・連絡先

社会福祉法人那珂市社会福祉協議会
担当：特定事業推進室（浅野、武藏、内山）
TEL：(029) 229-0309
FAX：(029) 296-1002

<調査実施に当たっての仮説課題>

1 家族の変化

核家族の増加に伴い、祖父母などからの日常的な支援のない家庭が増えている。特に、ひとり親世帯においては、時間的・金銭的な余裕がなく、地域参加が困難な家庭が多いと予測される。

2 働き方の変化

およそ40年前と比較して、片働き世帯と共働き世帯の比率が逆転しており、以前のような、専業主婦の妻が中心となって地域行事を実施することが少なくなっている。

3 休日の過ごし方の変化

土日に習い事に通う子どもが増えたことで、子ども会などの地域行事への参加優先順位が下がっている。また、共働き世帯が増えたことで、休日に家庭の用事を行うことが多くなり、地域活動に割く時間が大幅に減っている。

4 意識の変化

上記の子育て環境の変化に伴い、地域活動の「参加」や「役」に対する負担感が増しており、「子どもが参加したいか否か」の前に「保護者が参加したいか否か」が優先されるようになってきている。

上記を踏まえ、アンケートの設問内容を設定する。

住民の地域活動に関するアンケート

本アンケートは、子育て世代（主に小中学生の保護者）を対象に、子育てに関する状況と地域活動への参加状況を調査することで、参加に関する傾向や課題を把握し、今後の地域活動の進め方について検討する事を目的としています。

本アンケート結果については、那珂市社会福祉協議会ホームページで公開するとともに、第4次那珂市地域福祉活動計画や社会福祉協議会の実施する各種取り組みにおいて使用いたします。

※本アンケートでいう地域活動とは、自治会・地区まちづくり委員会の活動、子ども会（育成会）の活動、PTA活動（授業参観は除く）、自治会を範囲とするスポーツ・文化等の愛好会等の活動、消防団等を指します

1 基本調査

①回答者の年代について、当てはまるものを選択してください。

10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代以上

②回答者の性別について当てはまるものを選択してください

男性 女性 その他

③世帯の状況について同居されているかた全てを選択してください

※選択肢は子どもから見ての関係性になります

※世帯は敷地内に親世帯があるものも同居として選択してください

曾祖父 曾祖母 祖父 祖母 父 母 その他（ ）

小学生 中学生 高校生 大学・短大・専門学校生

④子どもの人数について当てはまるものを選択してください

※小中学生以外も含む

1人 2人 3人 4人 5人以上

⑤自治会の加入状況についていずれかを選択してください

※加入状況は回覧板等が回ってくるのは加入、

加入 未加入 わからない

⑥子ども会（育成会）加入の状況についていずれかを選択してください

加入 未加入

⑦保護者の就労状況について当てはまるものを選択してください。

※就労状況は正規職、パート・アルバイトは問いません

- 共働き（夫婦とも土日祝日休） 共働き（どちらかは土日祝日就労）
父親のみ就労 母のみ就労 自営業（土日休み） 自営業（土日営業）
その他（具体的に_____）

⑦お住まいの地域について当てはまるものを選択してください

- 神崎 額田 菅谷 五台 戸多 芳野 木崎 瓜連

2 活動状況

①お子さんの土日祝日の過ごし方について、頻度の高いもの全てを選択してください

- 友人と遊ぶ 家族と外出 家族と家で過ごす 習い事（文化・学習）
部活動 子ども会活動 スポーツ少年団 スポーツクラブ
その他（具体的に_____）

②保護者の土日祝日の過ごし方について、頻度の高いもの全てを選択してください

- 家事 趣味で外出 家で趣味活動 子どもと過ごす 子どもと外出
スポーツ活動 子どもの習い事等の対応
地域活動（地域で行われるスポーツも含む） その他（具体的に_____）

③子育てに協力してくれる人について、該当するもの全てを選択してください
（過去1ヶ月）

- 父方の祖父母 母方の祖父母 父の兄弟 母の兄弟 近所のかた
友人 協力してくれる人はいない（保護者のみ） その他（具体的に_____）

3 参加状況（過去3年間）

①地域活動への参加状況について当てはまるものを選択してください

- 参加している（年2回以内） 参加している（年3回から10回未満）
参加（年10日以上） 参加していない

②地域活動へ参加しているかたへ伺います。どのような形で参加していますか、当てはまるものを選択してください

- 役員として参加 参加者として その他（具体的に_____）

4 地域活動や役職に対するイメージについて

①地域活動参加に対する負担感について当てはまるものを選択してください

- とても負担を感じる 負担を感じる 少し負担を感じる 負担を感じない
その他（具体的に ）

②地域活動の役職に対する負担感について当てはまるものを選択してください

- とても負担を感じる 負担を感じる 少し負担を感じる 負担を感じない
その他（具体的に ）

5 今後の活動参加や活動に対する意見

①今後の地域活動への参加について、最も近いものを選択してください

- 参加する 誘われれば参加する なるべく参加したくない 参加したくない

②①の理由をご記入ください（自由記述）

③地域活動に対する意見等がありましたらご記入ください（自由記述）

④その他ご意見等がありましたらご記入ください（自由記述）

令和2年度
住民の地域活動参加に関する実態調査
報告書

令和3年3月
社会福祉法人那珂市社会福祉協議会
住所 那珂市瓜連321市役所瓜連支所分庁舎
電話 (029) 229-0309